

「活動、将来につなげたい」

三戸高クリエイティ部 高総文祭最優秀を報告



風張教育長(手前)に全国高総文祭で最優秀賞に輝いた喜びを報告した三戸高校の生徒ら

7月から8月にかけて岐阜県で行われた第48回全国高校総合文化祭で、郷土研究部門の「公共・政策」分野で最優秀賞に輝いた三戸高校「クリエイティ部」の

2年生が2日、県庁を訪れ、県教育委員会の風張知子教育長に喜びを語った。同部は全国高総文祭で、三戸町の魅力創出策としてポスター制作や空き家改装

プロジェクトの活動を行ったことを報告。部の活動が少子高齢化などの課題解消に貢献できると発表し、高評価を受けた。

この日は全国高総文祭に参加した同部の岩間愁翔さん、千葉優思さん、上田和奈さん、大平珠来さん、小川真由さん、千浦瑠杏さんの6人が、直町年行校長、同部顧問の赤井翔太教諭とともに県庁を訪れた。制作したポスターを披露する場面もあり、風張教育長は「町のいいところを発見できるのは素晴らしいこと」「これからも頑張って」などとメンバーに語りかけていた。

大平さんは「本番は緊張したが、やってきたことをさまざまな人に伝えられてうれしかった」、上田さんは「イベント企画に関わる仕事に就きたいので、部の活動が将来につながればと思う」とそれぞれ話した。

(高田春菜)